各　位

ＮＰＯ放送批評懇談会（担当：中島／福島）
Tel.03-5379-5521　Fax.03-5379-5510

放送批評懇談会 50 周年 取材・報道のお願い

平素より当会にはご理解、ご支援を賜り、ありがたく御礼申しあげます。

放送批評懇談会は 1963 年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを正会員に、放送批評専門誌『ＧＡＬＡＣ／ぎゃらく』発行、優れた番組・ＣＭを顕彰する「ギャラクシー賞」の運営などを行ってまいりました

当会はことし 2013 年、創立 50 周年を迎えます。これも関係各位のご理解とご支援の賜物と、厚く御礼申しあげます。

創立 50 周年を記念して、当会では様々な記念事業を進めております。
当会の 50 周年について、ご取材、ご紹介をお願い申しあげます。

放送批評懇談会　50 周年記念事業

１．放送批評懇談会 50 周年記念式典
２．放送批評懇談会 50 周年記念賞
３．50 周年記念出版「放送批評の 50 年」
４．ギャラクシー賞トロフィー「バードマン」
５．ギャラクシー賞データベース
６．記念イベント「ギャラクシー賞が見つめたテレビ、ラジオ、ＣＭ」

本件担当＝中島好登（こと）、福島美子

ＮＰＯ／特定非営利活動法人 放送批評懇談会

〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ﾋﾞﾙ 2F　Tel.03-5379-5521　Fax.03-5379-5510　kondankai@houkon.jp　http://www.houkon.jp

放送批評懇談会 50周年記念式典

2013年6月3日（月曜日）
ウェスティンホテル東京「スタールーム」
14:00～16:00（取材受付12:30、取材開場13:00）

放送批評懇談会の歴史を一挙紹介！

1963年4月設立の放送批評懇談会。内村直也、渋沢秀雄、梅田晴夫ら当時の演劇人、文化人、文筆家たちが、テレビ番組、ラジオ番組の可能性に心を弾ませ、放送批評懇談会は誕生した。50年の歴史を映像で紹介。

久米宏がテレビ、ラジオを語る！

50周年の記念公演には久米宏さんを迎える。稀代のラジオパーソナリティ、テレビ司会者である久米宏さん。ＴＢＳアナウンサー時代には、「料理天国」「ピッたしカン・カン」「ザ・ベストテン」で国民的人気を博し、「土曜ラジオワイド東京」ではラジオのしゃべりの真骨頂を極めた。フリーに転じては、「久米宏のＴＶスクランブル」で情報・報道番組の新機軸を打ち立て、「ニュースステーション」で日本のニュース番組を変革。テレビの申し子、ラジオの申し子ともいえる久米宏さんが、今、放送人としての歴史を語る。、

50周年記念賞の贈賞！

テレビ、ラジオの50年を見つめ、放送批評懇談会が選びだした5本が、この日贈賞されます。

式次第

14:00　来賓ご祝辞
14:15　放送批評懇談会の歴史
14:30　記念講演　久米宏「ラジオとテレビと格闘した46年。ほぼ50年です。」
15:30　放送批評懇談会50周年記念賞贈賞
16:00　終了

★「50周年記念式典」にひきつづき、「第50回ギャラクシー賞贈賞式」も同ホテルで執り行います。

16:30　第50回ギャラクシー賞贈賞式
18:30　懇親会

★「第50回ギャラクシー賞贈賞式」については、改めてご案内します。

放送批評懇談会 50周年記念式典

2013年6月3日（月曜日）
ウェスティンホテル東京「スタールーム」
14:00～16:00（取材受付12:30、取材開場13:00）

取材要領

■50周年式典取材をご希望の方は、申込書に必要事項をお書き込みのうえ、ファクスでお申し込みください。事前にお申込のない取材はお受けできません。
■スペースの都合により1紙／誌につき1人（カメラ別）、1番組につき1クルーでお願いします。
■撮影希望者（スチール、ムービーとも）は、12:30までに取材受付にご集合ください。（カメラ位置は抽選で決定。ただし申込多数の場合は、抽選によって会場にお入りいただけない場合があります。ご了承ください。）

放送批評懇談会50周年記念式典：取材申込書

送信先 Fax.03-5379-5510

放送批評懇談会50周年記念式典の取材を申し込みます。

会社名	
媒体名／番組名	
住所　〒	
担当者	Tel.
Email	Fax.
取材人数	スチールカメラ　あり　なし テレビカメラ　あり　なし

放送批評懇談会 50周年記念賞

■審査委員会■

委員長　　藤田真文

委員　　音 好宏、橋本 隆、上滝徹也、小田桐 誠

１．50周年記念賞制定の趣旨

放送批評懇談会50周年を記念し、この半世紀の放送界に多大なる貢献があった人物、番組、組織を選定し顕彰することにいたしました。選定の視点として、単に過去に輝かしい業績があったというだけではなく、その存在が放送の未来像をも示唆している点を評価しました。

２．受賞者・受賞作品

「おかあさんといっしょ」

1959年に放送を開始し現在も続く同番組は、日本の幼児教育に大きな役割を果たしてきた。歌のお兄さん･お姉さんや歴代キャラクターなどの出演者は､各時代の子どもたちの記憶に深く刻み込まれている。

山田太一

「男たちの旅路」「岸辺のアルバム」「早春スケッチブック」「ふぞろいの林檎たち」など数々の名作を世に送り出した。市井の人々の日常を時代の現実に即して描く作風は、現在の連続ドラマの基礎を作ったと言える。

久米 宏

「ザ・ベストテン」「久米宏のＴＶスクランブル」「ニュース・ステーション」など、テレビの歴史を画す番組の司会､キャスターを務めてきた。また､近年パーソナリティとしてラジオへの貢献も大である。

「ＮＮＮドキュメント」

1970年に放送を開始した同番組は、戦争、福祉、地方政治など広範な分野で日本社会への問題提起を続けてきた｡系列の地方局に貴重な全国発信の機会を提供し､地域の番組制作者の育成にも寄与している。

テレビマンユニオン

日本初の独立系プロダクションとして、斬新な番組作りで実践面だけでなく理論面でも放送界をリードしてきた。放送局との業務関係のあり方、ユニオンという組織形態など制作会社の地位確立の試みも評価に値する。

（文責：藤田真文）

50周年記念出版「放送批評の50年」

堂々960ページ、
5月中旬に刊行予定！

放送批評懇談会の50周年記念にあたり、当会の批評活動の足跡をたどるべく編集中なのが、５月中旬刊行予定の「放送批評の50年」です。

1967年創刊の月刊誌「放送批評」（のちに現在の「ＧＡＬＡＣ」に改称）に掲載されてきた記事の数々を再録したもので、それぞれの「時代」を映し出してきたこれらの論考は、当会のみならず放送界の歴史的財産でもあるとの自負のもと、50周年記念事業の一環として編纂いたしました。

編集作業は、まず「ＧＡＬＡＣ」の歴代編集長や理事経験者など10名を選定委員とし、10年で20本を目安に記事を選ぶところから始まりました。

選定の基準は「現在の読者が読んでも色褪せることのない、放送の未来を示唆する記事」です。ただ、これは単純に見積もっても年間100本以上の記事から2本を選ぶことになり、結果として、名だたる放送批評の先達たちの論考を数多く落とすことにもつながりました。まさに胃の痛くなるような過程を経て、ようやく100本の記事が再録される運びとなりました。

本書の編集を通じてあらためて実感したのは、「多様な人々が集い、放送について侃々諤々の議論をたたかわせてきたところに、放送批評懇談会の力の源がある」ということです。

刊行後は、ひとりでも多くの読者に本書を手にしていただき、そのエネルギーを感じていただきたいと思います。そして、これからの放送批評の可能性について考えるきっかけを発見していただきたいと考えます。ときには嘆き、怒ることも含めて、「放送」に熱くコミットしていった先達たちの論考には、「放送の未来を示唆する」ものが、ふんだんに散りばめられています。

*体裁　　Ａ5判、二段組、960ページ
*発行　　学文社
*刊行予定　5月中旬

*放送批評懇談会50周年記念品として関係者に無料頒布予定（一部、出版社を通じて書店売り）

放送大学の50年
NPO法人
放送大学の50年
学文社

「放送批評の50年」目次

はじめに　音 好宏 ―― 12

第1章　1960〜1970年代　1967〜1979　胎動の時代 ―― 15

「放送批評」1967年12月号
テレビ媒体の理論と実態　理想像による現実の超克　志賀信夫 ―― 16

「放送批評」1968年1月号
弛緩のメディア　放送批評――わがこころのキシミ　稲葉三千男 ―― 28

「放送批評」1968年6月号
Quo Vadis,Radio？　番組と営業サイドからみた民放ラジオ　島地 純 ―― 40

「放送批評」1968年7月号
座談会　**ドキュメンタリとルポルタージュ**　牛山純一・吉沢比呂志　《司会》和田矩衛 ―― 48

「放送批評」1968年12月号
七〇年安保にからむ放送　69年の放送界を展望　志賀信夫 ―― 59

「放送批評」1970年1月号
「テレビとは何か」という問いの重味　今野勉論に託して　青木貞伸 ―― 82

「放送批評」1970年2月号
座談会　**ヒューマン・タッチをCMにもりこむには**　荻昌弘・志賀信夫・竹村健一　《司会》堀江史朗 ―― 89

「放送批評」1970年3月号
牛山純一にきく「ベトナム海兵大隊戦記」　青木貞伸 ―― 102

「放送批評」1971年2月号
十二歳の放送番組審議会　鳥山 拡 ―― 108

「放送批評」1971年6月号
陽焼けした生活人からの発言　日の丸から四年　萩元晴彦 ―― 119

「放送批評」1971年6月号
ラジオ「作り手」と「送り手」の現場から　**〈ラジオ〉からの証言**　吉村育夫 ―― 126

「放送批評」1972年1月号
国家と放送　今後の放送行政の問題点　清水英夫 ―― 132

「放送批評」1972年3月号
「テレビ」は何を発注するか　佐怒賀 三夫 ―― 141

「放送批評」1972年4月号
ジャーナリズムとしてのテレビ　番組分類の考え方をこえて　山本 明 ―― 150

「放送批評」1973年2月号
報道とパブリシティの間　「広報部」と「取材者」の〝情報パック〟化されるニュースをめぐる対峙　松田 浩 ―― 158

「放送批評」1973年11月号
ドキュメンタリー「キャロル」　なぜ客観的でなければならないか　龍村 仁 ―― 166

「放送批評」1973年12月号
不可視なメロ・ポリティックス　私状況（ジャーナリズム）と諸映像（ジャーナリズム）の同衾　松尾羊一 ―― 173

「放送批評」1975年5月号
現代における中継　中継技術の進歩と「中継」の変貌　藤竹 暁 ―― 182

「放送批評」1975年6月号
放送はエスタブリッシュド・メディアである　「署名性と匿名性」から遠く離れて　後藤和彦 ―― 191

「放送批評」1975年6月号
匿名性と記名性について　三菱重工業ビル爆破の意味するもの　別役 実 ―― 200

「放送批評」1976年1・2月号
対談　放送批評の自立性について
〝個〟と〝普遍性〟の振幅において　いかにテレビ批評を成立させるか　山本明・太田欣三 ―― 205

「放送批評」1976年12月号
テレビはジャーナリズムたりうるか　矢崎泰久・瓜生忠夫 ―― 216

「放送批評」1977年2月号
活字と映像の間　「落日燃ゆ」「妻たちの二・二六事件」　澤地久枝 ―― 229
「放送批評」1978年9・10月号
座談会　『獅子のごとく』を中心に　三時間ドラマはかく創られた　その誕生と栄光そして未来 ―― 234
大山勝美・倉木正晴・今野勉・豊田年郎・引田惣弥《司会》志賀信夫
「放送批評」1978年11月号
座談会　オレ！音像人間タモリ　タモリ　ほか《司会・構成》亀渕昭信 ―― 251
「放送批評」1978年12月号
ビデオ・コミュニケーションの思想　〝開かれたテレビ〟を見透す試み　野崎茂 ―― 259
「放送批評」1979年2月号
低俗とは　差別される娯楽番組　澤田隆治 ―― 268
「放送批評」1979年9・10月号
美しくて哀しい世界を描きたい　木村栄文 ―― 275
「放送批評」1979年11月号
〈特集・現代、テレビドラマツルギー〉
事実とフィクション　制作をめぐって　大山勝美・藤久ミネ ―― 279
演出者たり得るために　演出をめぐって　和田勉・佐藤忠男 ―― 286
近代劇のドラマツルギー　脚本をめぐって　山田太一・江藤文夫 ―― 294
地方と自然と人間　地方制作をめぐって　伊藤松朗・守分寿男 ―― 302
インタビュー　山藤米子《ききて》松尾羊一 ―― 310
【2013年の視点から】複製技術が生んだ「テレビの同時性」とは何か　藤久ミネ ―― 88
【2013年の視点から】政治状況をビビッドに受け止めた『放送批評』　上滝徹也 ―― 274

第2章　1980年代　1980〜1989　論争の時代 ―― 313

「放送批評」1980年8月号
要約文化を象徴する「プロ野球ニュース」　混在する求道精神と世相探知の精神　藤竹暁 ―― 314
「放送批評」1980年11月号
コミック文化としての「マンザイ」　松尾羊一 ―― 322
「放送批評」1981年9月号
座談会　話者たちのいるラジオ・いないラジオ　三國一朗・亀渕昭信《司会》小山雄二 ―― 328
「放送批評」1982年5月号
エッセイ　私のドキュメンタリー作法　意味の世界としてのドキュメンタリー　牛山純一 ―― 338
「放送批評」1982年8月号
対談　テレビにぬくもりを感じる瞬間　山田太一・大林宣彦 ―― 345
「放送批評」1982年12号
〈特集・ドラマ――テレビ巨匠時代〉
〈ドラマ作家考〉新鉱脈との出逢いは楽しい　早坂暁という作家　深町幸男 ―― 358
〈ドラマ作家考〉個人様式・集合体の様式　そして時代様式　山田太一という作家　鴨下信一 ―― 362
〈ドラマ作家考〉「――――」の重さ　倉本聡という作家　内館牧子 ―― 366
「放送批評」1983年5月号
番組解剖　久米宏のTVスクランブル　新しい時代の情報番組が生まれた　三木鮎郎 ―― 370
「放送批評」1983年7月号
座談会　批評のないところに進歩はない　メディア相互の活性化のために
佐藤精・古谷糸子・松田浩《司会》志賀信夫 ―― 376
「放送批評」1983年9月号
スーパーウーマン〝おしん〟　麻生千晶 ―― 387

「放送批評」1984年5月号
パネルディスカッション　**テレビ・メディアの弱点を衝く**　「アフタヌーンショー」から見たテレビ　石原正礼・加東康一・梨元勝・ばばこういち・平岡正明　ほか　《司会》島田親一　394

「放送批評」1985年8月号
連続シンポジウムをおえて　**憂国TV論**　平岡正明　416

「放送批評」1985年12月号
平岡正明氏『憂国TV論』に反論する　**女・子どもでなぜ悪い**　女性型メディアの可能性について　大山勝美　428

「放送批評」1988年11月号
第一線放送人をハダカにする出前座談会16　**大衆の正しい力学が時代を創る**　堀威夫　《聞き手》大野三郎・加東康一・ばばこういち　436

「放送批評」1989年5月号
鼎談　天皇報道を振り返って　**テレビは何を伝えたのか**　稲葉三千男・大蔵雄之助・志賀信夫　451

「放送批評」1989年8月号
ビッグ・インタビュー　NHKの積極的未来論　**既存メディアにしがみつくな**　島桂次　《きき手》嶋田親一　461

【2013年の視点から】開かれたフォーラムとしてのスリリングな『放送批評』　藤田真文　321

【2013年の視点から】80年代後半から見えていた、成熟後の分かれ道　小田桐誠　386

【2013年の視点から】「昭和」が死んだ1980年代は、テレビ放送の絶頂期か　坂本衛　435

第3章　1990年代　1990〜1999　告発の時代　471

「放送批評」1991年1月号
21世紀のパーソナル・メディアを実感しよう！　**エレクトロニクス未来形**　高田佐紀子　472

「放送批評」1991年3月号
国連平和協力法案と放送　**テレビにたりない憲法論争**　奥平康弘　478

「放送批評」1991年8月号
衛星放送時代へのパワーシフト　**地上ローカル局のサバイバル試論**　河内山重高　485

「放送批評」1992年1月号
イコールパートナーの光と影　放送局とプロダクション　村木良彦　492

「放送批評」1992年9月号
国境を越える電波　放送の〝国際化〟試論　篠原俊行　500

「放送批評」1993年1月号・2月号
郵政省失政録　上下
the Misgovernment about the Ministry of Posts and Telecommunicathions　坂本衛　507

「放送批評」1993年6月号
〝やらせ〟考
マスコミの扱いと責任のとり方　原寿雄　526
テレビドキュメンタリーの不幸　竹山昭子　531

「放送批評」1994年3月号
バブルになぶられた放送局　**KBS京都　根抵当の怪とダイエーの思惑**　田比良俊夫　536

「放送批評」1994年12月号
座談会　**窮地の〝言論・表現の自由〟**　権田萬治・田島泰彦・ばばこういち　《司会》青木貞伸　542

「放送批評」1995年4月号
〝地震列島〟メディアの課題　1・17阪神大震災　青木貞伸・上野修・松尾羊一　《司会》伊豫田康弘　554

「放送批評」1995年8月号
在阪局からの反論　**阪神大震災報道もうひとつの問題点**　辻一郎　561

「放送批評」1995年9月号
戦後50年と放送　**テレビと新聞の「競争」と「共生」**　新井直之　566

「放送批評」1996年3月号
少女暴行事件報道ウォッチング　**沖縄県民の冷静な怒り**　比嘉要　574

「放送批評」1996年3月号
基地取材ノートから　**沖縄も本土も元凶は日米安保**　加藤久晴 ―― 581
「放送批評」1996年8月号
TBS坂本弁護士テープ問題　**〝新生TBS〟への残された宿題**　伊豫田 康弘 ―― 588
「放送批評」1996年12月号
膨大なデータが業界を惑わせる　**テレビは文化事業である**　田村穣生 ―― 595
「放送批評」1997年2月号
インタビュー　**五味一男**　広告主より視聴者が大事　**個人視聴率なんて10年はやい**　《構成》坂本 衛 ―― 604
「GALAC」1997年6月号
放送にとって批評とは何か　自己を極限まで解体せよ!!　吉本隆明　《インタビュー・構成》坂本 衛 ―― 610
「GALAC」1997年6月号
なぜ君は〝放送批評〟するのか?　「新放送批評派」連帯のためのアピール　藤田真文 ―― 617
「GALAC」1997年6月号
文学としてのドキュメンタリー　テレビマンユニオン・ディレクター　**是枝裕和**　こうたき てつや ―― 624
「GALAC」1998年3月号
消すな!　時代劇職人の技　嶋田親一 ―― 632
「GALAC」1998年6月号
座談会　**メディアに〝ナイフ殺人〟の責任はない**　飯田譲治・宮台真司・上滝徹也　《司会》坂本 衛 ―― 638
「GALAC」1998年6月号
座談会　**ドキュメンタリーは地方から再生する**　中村登紀夫・永田俊和・鈴木典之・伊豫田康弘 ―― 649
「GALAC」1999年2月号
北朝鮮はテレビのタブーか?　石高健次 ―― 658
「GALAC」1999年6月号
続・政治とテレビ　**「参考人招致」なる不愉快**　清水英夫 ―― 664
「GALAC」1999年11月号
ワイドショーの構造を徹底検証!　**増殖する〝サッチー〟というイメージ**　今村庸一 ―― 672

【2013年の視点から】新しい時代にふさわしい放送批評をめざして　丹羽美之 ―― 553
【2013年の視点から】ドラマ、バラエティが花開いた90年代の放送　藤田真文 ―― 616
【2013年の視点から】（後送）　音 好宏 ―― 670

第4章　2000〜2010年代　2000〜2012　再構築の時代 ―― 681

「GALAC」2000年10月号
〝失われた90年代〟を広告はこう描いた　兼高聖雄 ―― 682
「GALAC」2001年2月号
バラエティー番組を席巻する　**〝素人〟パワー**　原 由美子 ―― 688
「GALAC」2001年9月号
連ドラ『HERO』現象のナゾ　**そしてドラマはバラエティ化した**　こうたき てつや ―― 694
「GALAC」2002年7月号
テレビアニメーション文化論　**「アトム」たちが作った新しい世界**　諸橋泰樹 ―― 700
「GALAC」2002年8月号
特別企画　**「密室」政治より「ワイドショー」政治のほうがまし**　藤竹 暁 ―― 712
「GALAC」2003年9月号
コミュニケーションはどう変容したのか!?　《構成》兼高聖雄 ―― 722
「GALAC」2003年10月号
地上デジタル現行計画「すでに破綻」の決定的理由10　坂本 衛 ―― 731
「GALAC」2003年12月号
久米宏のいた時代　〝山の手民主主義〟が残したもの　小中陽太郎 ―― 751
「GALAC」2004年3月号
視聴率の歴史と「これから」　岩本太郎 ―― 761

「GALAC」2004年5月号
韓国ドラマの魅力はここだ！　**日本にも懐かしい恋愛シーンのときめき**　中町綾子 ―― 768
「GALAC」2005年6月号
フジテレビ　VS.ライブドア
異業種が狙う放送ビジネス!?　「ネットと放送の融合」という幻想　坂本 衛 ―― 775
「GALAC」2005年10月号
2005夏　テレビは何を伝えたか　**「記憶」と「記録」の間に**　藤田真文 ―― 785
「GALAC」2006年4月号
政府・自民党が〝経営改革〟を叫ぶ四つの背景　小田桐 誠 ―― 794
「GALAC」2006年12月号
報道番組の今　**揺れる！　バラエティと報道の境界**　山田健太 ―― 803
「GALAC」2007年2月号
制作会社40年間の死闘　岩本太郎 ―― 811
「GALAC」2007年6月号
〝やらせ〟〝捏造〟はなぜ起こるのか？　「あるある大事典Ⅱ」が突きつけたもの　碓井広義 ―― 822
「GALAC」2007年7月号
崇高な理念と利害の狭間　砂川浩慶 ―― 829
「GALAC」2008年1月号
特別対談　**リメイクするより、いまを撃て！**　鶴橋康夫・金子修介 ―― 835
「GALAC」2008年9月号
テレビが自らを検証する時　NHKインサイダー事件の「検証番組」について　鈴木嘉一 ―― 844
「GALAC」2009年1月号
「日韓中テレビ制作者フォーラム」などに見るアジアドラマの潮流　**変貌する東アジアのTVドラマ**　中町綾子 ―― 852
「GALAC」2009年4月号
ポストYou Tube時代の放送批評　津田大介 ―― 859
「GALAC」2009年6月号
テレビ経済報道の問題点　**報道現場を縛る「三つの制約」**　山田厚史 ―― 865
「GALAC」2009年9月号
膨張する放送外事業　川本祐司 ―― 871
「GALAC」2009年10月号
第三者機関に頼らない倫理とは　大石泰彦 ―― 883
「GALAC」2010年2月号
視聴者は何を期待しているか　**時代の無意識が見えるドラマ**　こうたきてつや ―― 890
「GALAC」2010年6月号
座談会　作り手が語る　**ドキュメンタリーの魅力と可能性**　右田千代・谷原和憲・阿武野勝彦《司会》丹羽美之 ―― 896
「GALAC」2011年7月号
対談　**東日本大震災の被災地を歩いて**　吉岡忍・石井彰 ―― 905
「GALAC」2011年11月号
原発事故初期報道の検証　**実態とかけ離れていたテレビ報道**　東京大学大学院学際情報学府 震災報道調査班 ―― 915
「GALAC」2012年5月号
ラジオの役割は見直されたのか　高瀬 毅 ―― 922
「GALAC」2012年9月号
多チャンネル時代に突入したBSの課題と展望　**BSパラドックスを乗り越えろ**　川喜田 尚 ―― 933
【2013年の視点から】激変する社会のなかで問われる、テレビの価値　中町綾子 ―― 750
【2013年の視点から】メディア発展のための「放送批評」運動へ　碓井広義 ―― 784
年表・放送史50年（藤田真文・小林英美） ―― 943
編集を終えて　藤田真文 ―― 956

ギャラクシー賞トロフィー「バードマン」

松永真デザインの「バードマン」、
ギャラクシー賞のトロフィーに！

ギャラクシー賞が「第50回」という大きな節目を迎えるにあたって、このたび、その象徴たるトロフィーも一新！　ガラス製だったこれまでのトロフィーとは趣きを異にした、新しいデザインでお目見えすることになりました。

デザインを手がけたのは、日本を代表するグラフィックデザイナーのひとり、「松永真」氏。このたび新しいトロフィーとして登場するのは、「バードマン」と名づけられたメタリックな作品です。トロフィーの既成概念を打ち砕くインパクトのあるフォルムはもちろんのこと、そのコンセプトもまた、ギャラクシー賞にふさわしい豊かな意味合いをもつことにご注目ください。

「バードマン」は「空飛ぶ人」。遮るもののない広大な空を悠々と飛び、高い空からならではのワイドな視野をもって、さまざまな事象を俯瞰できるという才能をもっています。そして、加えて特筆したいのは、このバードマンは天地左右、どの方向にもバランスをとって自立することが可能であるという点です。

つまり、「何ものにも束縛されない自由な取り組みと広い視野」、そして「自在なバランス感覚と自立の精神のシンボル」をコンセプトに誕生したのが、この「バードマン」なのです。

優れた放送文化を創造するクリエイターへの栄誉の記念として、そして放送批評懇談会の活動におけるシンボリックな存在として、今後広く、多くの人たちに親しまれていくことを期待します。

＜トロフィーの種類＞

賞の内容に応じて、サイズ、カラーの違いがあり、5タイプで展開。

*大賞　　[大/アルミ製・天地約25cm]ゴールド

*優秀賞　[中/アルミ製・天地約21cm]シルバー

*選奨　　[小/アルミ製・天地約16cm]ブラック

*特別賞・個人賞・DJ賞・マイベストTV賞　[大]レッド

*50周年記念賞　[大]ブラック

＜デザイナープロフィール＞

松永 真（まつなが・しん）／グラフィックデザイナー

1940年、東京生まれ。東京芸術大学卒業後、資生堂宣伝部を経て、1971年、松永真デザイン事務所設立。ポスター、ＣＩ計画などのグラフィックデザインを主軸に、ドローイングや彫刻、モニュメントなど、広範囲なクリエイティブ活動を展開。国内はもとより、海外での大規模な個展も多く、ニューヨーク近代美術館、クーパー･ヒューイット美術館をはじめ、世界各国85ヵ所の美術館などに多くの作品が永久保存されている。ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ金賞・名誉賞、毎日デザイン賞、芸術選奨、紫綬褒章、亀倉雄策賞など、受賞多数。

GALAXY
AWARD

GALAXY
AWARD

ギャラクシー賞データベースの開設

ギャラクシー賞データベース、
2013年6月3日オープン！

ギャラクシー賞は長きにわたり、日本の優秀なテレビ、ラジオ番組を顕彰してまいりました。放送批評懇談会の50周年、ギャラクシー賞の50回目を記念して、ギャラクシー賞を受賞した優れたコンテンツを、より一層世の中に拡め、視聴者の利益に供するため、「ギャラクシー賞データベース」を開設いたします。

放送月日、放送局、制作会社、制作者、出演者など、様々なキーワードでの番組検索が可能となります。番組名や受賞理由、作品内容に含まれた言葉も検索対象としましたので、たとえばギャラクシー賞が「戦争」を扱った番組についてどのような評価を行ってきたのか、なども知ることができます。
番組研究者はもとより、過去の番組に学ぼうとする作り手、番組に関心の高い視聴者に有益な情報をもたらすものと考えます。

これまでテレビやラジオの番組は、いったん放送されてしまえば、もう見ること聞くことの難しいものでした。しかし現在、さまざまなアーカイブが誕生し、昔の番組を見ることが夢ではない時代が訪れています。
ギャラクシー賞データベースは将来的には、各局の運営するアーカイブやビデオ・オン・デマンド事業と連携し、優秀番組と実際に触れ合える場にもしたいと考えます。

同時に、過去の番組が見られる環境が整うとともに、よい番組は見たいが、よい番組をどうやって見つければよいのかわからないという声を聞くようになりました。「ギャラクシー賞データベースはテレビやラジオの秀作に出合える」――今後、視聴者に、そのように評価していただく場にしていきたいと思います。
テレビ・ラジオの優秀番組ポータルサイト、名番組へのナビゲーターとなることを目指します。

*2013年6月3日(月) 正午12:00オープン

きゃらく2013年4月号
表紙の人／綾野 剛

放送批評懇談会
オンラインショップへ

マイベストTV賞投票

放懇シンポジウム2013
ローカルパワーの
創り方 開催決定!
申込受付中
GO Click

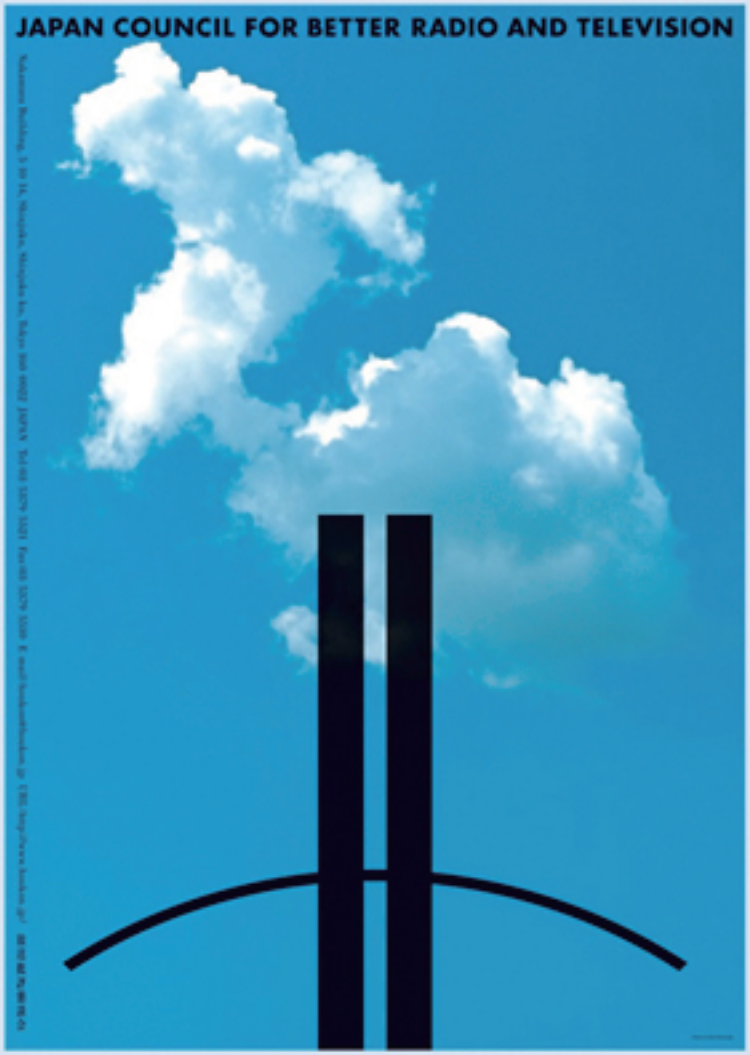
第50回
ギャラクシー賞
下期募集開始
テレビ部門　ラジオ部門
CM部門　報道活動部門
GO Click

第50回上期
ギャラクシー賞
テレビ部門入賞決定!
ラジオ、CM、報道活動部門
入賞候補作品決定!
GO Click

『放送批評』
全表紙&
目次データ
GO Click

GALAC
BEST&WORST
原稿募集中!
採用者にはクオカードを
GO

Google™カスタム検索　検索　×



ギャラクシー賞
データベース検索へ

ほうこんギャラリー

[2013.2.18]
加地倫三さん
「GALAC」グラビア撮影

(20/20) back next

ニュース

2013年3月6日(水)
GALAC2013年4月号(3月6日発売)の内容を紹介しました。

2013年3月1日(金)
ギャラクシー賞テレビ部門月評会を開催しました。

2013年2月28日(木)
理事会を開催しました。

2013年2月22日(金)
ギャラクシー賞の月間賞に2013年1月度を追加しました。

2013年2月21日(木)
ギャラクシー賞ラジオ部門定例会を開催しました。

2013年2月19日(火)
ギャラクシー賞CM部門定例会を開催しました。

放送批評懇談会 オンラインショップへ

マイベストTV賞投票

放懇シンポジウム2013 ローカルパワーの創り方 開催決定! 申込受付中 Click

第50回 ギャラクシー賞 下期募集開始 テレビ部門　ラジオ部門 CM部門　報道活動部門 Click

第50回上期 ギャラクシー賞 テレビ部門入賞決定! ラジオ、CM、報道活動部門 入賞候補作品決定! Click

『放送批評』 全表紙&目次データ Click

GALAC BEST&WORST 原稿募集中! 採用者にはクオカードをプレゼント Click

放送批評懇談会 正会員・維持会員一覧 Click

モバイルサイト マイベストTV賞の投票、「GALAC」の購入が携帯電話からもできます! http://www.houkon.jp/m/ Click

ギャラクシー賞データベース

▶使い方
▶よくあるご質問

フリーワード

番組名、人物名、キーワードなどを入力して下さい。

エリア　都道府県の選択

放送局　放送局の選択

受賞年度　受賞年度の選択 ～ 受賞年度の選択

部門　テレビ　ラジオ　個人　CM　報道活動　その他

受賞年度毎の作品一覧はこちらへ

検索

【検索結果】詳細は作品名をクリックして下さい。

受賞年度	作品名	放送局
第1回／1973年度	シオノギ・テレビ劇場　山本富士子アワ	フジテレビジョン
第1回／1973年度	シオノギ・テレビ劇場　山本富士子アワー	フジテレビジョン
第1回／1973年度	シオノギ・テレビ劇場　山本富士子アワー	フジテレビジョン
第1回／1973年度	シオノギ・テレビ劇場　山本富士子アワー	フジテレビジョン
第1回／1973年度	シオノギ・テレビ劇場　山本富士子アワー	フジテレビジョン
第1回／1973年度	シオノギ・テレビ劇場　山本富士子アワー	フジテレビジョン
第1回／1973年度	シオノギ・テレビ劇場　山本富士子アワー	フジテレビジョン

▲ページトップへ

50周年記念イベント
「ギャラクシー賞が見つめた
テレビ、ラジオ、ＣＭ」

■開催日
2013年6月22日（土）、23日（日）、29日（土）、30日（日）

■会場
千代田放送会館
東京都千代田区紀尾井町　Tel.03-3238-7401

■開催規模、参加対象
各プログラムとも200名予定。視聴者、放送関係者。参加無料

■内容
「テレビ」「ラジオ」「ＣＭ」「報道活動」のギャラクシー賞４部門で、それぞれに作品を見て制作者と語り合う。テレビは4枠、ラジオ、報道活動は各2枠、ＣＭは3枠を予定。

■開催趣旨
豊かで優れた番組の創造および放送文化の振興を目的として、1963年、有志によって設立された放送批評懇談会は、今年50周年を迎えます。会の設立と同時に誕生したギャラクシー賞もまた、第50回を数えることとなりました。
これを記念して放送批評懇談会では、ギャラクシー賞を飾った過去の受賞番組を視聴し、その制作者と懇談するイベントを企画いたしました。
テレビ、ラジオが生み出した成果を享受し、番組の素晴らしさを再発見して、さらなる番組作りのエネルギーにつながる場となることを目指します。

ＮＰＯ/特定非営利活動法人 放送批評懇談会

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS

■創立　ＮＰＯ放送批評懇談会＝2005年5月2日（任意団体放送批評懇談会＝1963年4月）
■会勢　正会員194名　維持会員137社
■役員
理事長＝音 好宏　専務理事＝橋本 隆（総務担当）
常務理事＝上滝徹也、小田桐 誠、藤田真文（50周年委員長）
名誉会長＝清水英夫　監事＝隈部紀生、鈴木典之
理事＝飯田みか（出版編集委員長）、藤久ミネ（選奨事業委員長）、碓井広義（企画事業委員長）、丹羽美之（選奨事業委員会テレビ部門委員長）、桜井聖子（選奨事業委員会ラジオ部門委員長）、五井千鶴子（選奨事業委員会ＣＭ部門委員長）、鈴木嘉一（選奨事業委員会報道活動部門委員長）、滝野俊一（マイベストＴＶ賞プロジェクトリーダー）、石井 彰、市村 元、入江たのし、川喜田尚、小林 毅、坂本衛、嶋田親一、田中早苗、中町綾子、稗田政憲、中島好登（事務局長）

■目的および事業
広く一般市民を対象として、視聴者と放送局・放送制作者が手を携え、放送に関する公平・中立な批評活動等を行い、豊かで優れた番組の創造および放送文化の振興を図り、市民が正確で信頼できる情報を享受し、市民の生活文化の発展に寄与することを目的とする。
（１）放送に関する書籍や雑誌の出版・編集事業　（２）優れた放送に関する企画や作品の選奨・表彰事業　（３）放送に関するセミナーやイベントの企画・開催事業　（４）放送に関する調査・研究事業　（５）放送に関する団体や機関への提言事業　（６）視聴者、放送関係者との交流事業　（７）放送に関する目的を同じくする国内外の団体等との連携事業　（８）その他、目的を達成するために必要な事業

■主な活動
放送の専門誌［ＧＡＬＡＣ/ぎゃらく］の編集・発行
放送批評の育成・振興を目的に、放送や番組の問題を様々な角度から取りあげ、研究するテレビ・ラジオの専門誌。番組批評のパイオニア。1967年創刊の「放送批評」誌をリニューアルして、97年5月創刊。
日本を代表する番組賞［ギャラクシー賞］の選定・表彰
本会創立と同時に1963年に設立された番組賞。審査には本会正会員自身があたり、月間で定例会を持つなど日常性を重んじた丹念な選考作業が特徴。毎年４月から翌３月が対象。テレビ、ラジオ、ＣＭ、報道活動の四部門制。それぞれ大賞、優秀賞、選奨、特別賞などを選出。個人賞、ＤＪパーソナリティ賞は個人に贈られる。
視聴者参加型［ギャラクシー賞マイベストＴＶ賞］の運営・表彰
本会がＮＰＯになったのを記念して誕生した、視聴者が視聴者の手でベスト番組を選ぶテレビ番組賞。毎月投票でノミネート番組を選び、年間一本のグランプリを選出。
［放懇シンポジウム／放懇セミナー］の企画・開催
その時々の放送をめぐる関心事をテーマに、当事者、専門家、研究者とともに放送を考える場を提供し、放送界に積極的な提案、提言を行なう。